

市民参加型スポーツ総合サイト“SPORTS.NET”の開発

渡辺博研究室 Muhammad Azril 橋本聡司 斎藤知之

1. はじめに

宇都宮市内では、多くのスポーツ団体が活動し、様々なスポーツイベントがある。しかし、その情報は分散され、全体を把握することは難しい。掲載された情報も限定的であり、情報量も少なく、検索、問い合わせも難しい。

そこで本研究では、宇都宮市内の全てのスポーツ情報への入り口となる参加型スポーツ総合サイトを開発する。

2. 現状分析

現状分析のために、市役所スポーツ振興課とのミーティングや、スポーツ情報システム研究会に参加し次のような問題点が挙げられた。

市民に発信されている情報は全員に有効な情報提供でなく、情報量も不足している。また、情報検索ができないため、素早く情報を得られないことや、情報にたどり着かないこともある。また、各団体が情報提供手段を持っておらず、情報発信力の脆弱さがうかがえる。発信されている情報も開催情報などにとどまっている。

地域スポーツ総合サイトの先行事例として、とやまスポーツ情報ネットワーク[1]や、ハマスポどっとコム[2]と言ったスポーツ情報サイトが運営されている。

3. サイトの設計

3.1. サイトの特徴

宇都宮市のスポーツ情報の全てにアクセスするための総合的なポータルサイトであることが必要である。また、参加型のサイトとし、一般市民が大会、スポーツ施設、サークルなどの情報を掲載し、更新できることとする。これは、先行事例や一般のサイトにはない特徴になる。サイトはPC版と同等の機能を持つ携帯版がある。

3.2. サイトの持つべき機能

3.2.1. ユーザ管理

掲載される情報の品質を高めるため、情報を書き込みたい人には、ユーザ登録を行ってIDを取得し

てもらふ必要がある。また、全てのユーザが全ての項目に書き込み可能にするのではなく、ユーザごとにアクセス権を設定し、運営者が他のユーザに適切な権限を与えることが可能である体制をとる必要がある。

3.2.2. 掲載内容の管理

コメントを参加者自らが書き込むことができるため、誹謗・中傷といった問題や、不快な内容のコメントが書きこまれてしまう可能性がある。これらに対応するため、クレーム対処機能を搭載することが必要である。

3.2.3. サイトの構成

トップページ、登録ページ、検索ページ、プロスポーツページ、大会結果ページ、特集ページ、リンク集ページを本サイトの構成とする。有機的につながりを持つ。

3.2.4. 運営するために必要な機能

実際に運営するためには、すでに持っている情報をエクセルなどから一括掲載できることが必要である。

4. サイトの開発

4.1. 開発環境

サーバのOSはWindows Server 2003とし、ウェブサーバにMicrosoft Internet Information Services, データベースにSQLサーバ、開発環境としてMicrosoft .NET Framework[3]を用いた。

4.2. サイトの機能

開発した中で、特に特徴となる機能を以下に挙げる。

4.2.1. 情報の登録と検索

登録ページではスポーツ施設や、指導者、サークル、イベントを利用者自らが登録することができる。情報が登録されることで、利用者が登録されたものを検索、閲覧し、スポーツ施設を探したり、サークルやイベントに参加を申し込むことができる。

4.2.2. 大会結果

大会結果ページでは、スポーツイベントに参加した利用者の目線で、そのイベントの結果を入力する

ことができる。また、コメントは参加者が自由に書き込める掲示板の様になっており、各ページに残していくことができるようになっている。

4.2.3. クレーム対処機能

クレーム対処機能については、クレームボタンとして実装した。これが押されることで一次的にそのコメントなどは非表示となり、運営者の判断により対処が行われる。

4.2.4. 権限譲渡

運営者や各ページの管理者が、一般ユーザにそのページの編集・クレーム対処・削除などの権限を譲渡することができる。これにより、サイトの運営者の負担を軽減できる。

4.2.5. 携帯版サイト

PC版と同等の機能を持つ携帯版も作成した。図1、図2は、それぞれPC版のイメージと、携帯版の動作例を示す。



図1. パソコン用トップページ

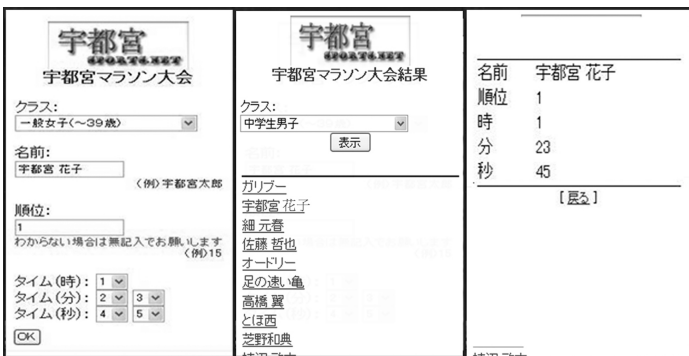


図2. 携帯版サイト動作例

URL PC版

<http://sportsdotnet.ics.teikyo-u.ac.jp/index.aspx>

携帯版

http://sportsdotnet.ics.teikyo-u.ac.jp/marathon_mobile.aspx

5. 社会実験

5.1. 社会実験の方法

2008年11月16日に行われた宇都宮マラソン大会で試作したサイトを使用した社会実験を行った。サイトの概要を説明した上で、マラソンの記録とアンケートを携帯版サイトから記入、もしくは用意した記録用紙への記入をお願いした。

5.2. 社会実験の結果

75名の方に結果入力とアンケートにご協力いただいた。アンケートの結果を図3に示す。

アンケート1：このようなサイトがあると良いと思いますか？

アンケート2：今回のシステムは使いやすいと思いますか？

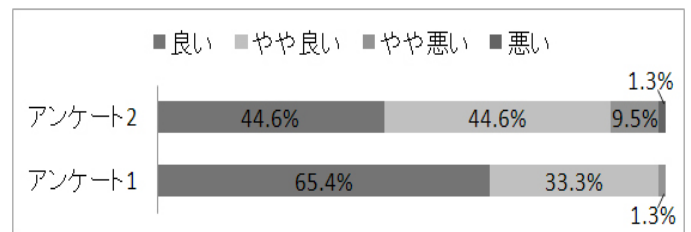


図3. アンケート結果

図3のアンケート結果から、多くの方々にサイトの必要性は感じていただけたことがわかる。

PC・携帯電話の操作が苦手な方にも、使いやすく、わかりやすいサイトであるべきであると感じた。

6. おわりに

本研究では、市民参加型スポーツ総合サイトの開発を行った。試作段階であったが、多くの市民に必要性を感じていただけたことから、このようなサイトは有用であると言える。今後、PC版サイトの開発を進め、実際に運営するための機能を実装した上で、動作を検証したい。

参考文献

[1]とやまスポーツ情報ネットワーク

<http://www.sportsnet.pref.toyama.jp/>

[2]ハマスポどっとコム

<http://www.hamaspo.com/index.htm>

[3]マイクロソフト ASP.NET デベロッパー センター

<http://msdn.microsoft.com/en-us/default.aspx>